

春を目前に

3月に入り気温が10度以上を記録するなど、暖かい日が続いたことからJA相馬村管内のリンゴ園においても積雪量が昨年よりも45cm少ない状況です。(3/5現在)弘前市によると桜の開花予想が4月21日と発表され、リンゴの開花においても早まるこ

とが懸念されます。

雪解けが早い場合に備えてSSの点検などを行い、計画的なリンゴ生産に努めましょう。

黒星病の初期防除

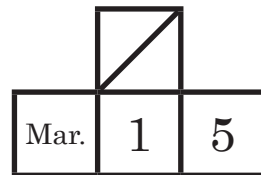
耕種的防除で黒星病の越冬密度や被害葉を減らすことを前提としながらも、効果的な予防効果を持つ

薬剤の選択と適期・適量散布が重要となっています。黒星病は、前年の被害葉が一次感染源となり、子の胞子の飛散は降雨によって引き起こされます。春先の子の胞子の感染を防ぐため、スピードスプレーヤ(SS)が走行可能な園地においては、特別散布を実施し

ましょう。また、SSの走行の妨げにならないよう、剪定後の枝を早めに片付け、作業が行いやすい環境を整える必要があります。園地の状況を把握しながら準備を進めましょう。

マメコバチについて

結実量を安定的に確保するため



りんご生産情報

春先に向けた農作業の動き

農業振興課

には、マメコバチなどによる授粉が欠かせません。マメコバチの必要数については、短期間に授粉を完了させるために1郡当たり400〜500個体の営巣雌が必要とされています。

マメコバチは、年に1回、4月〜5月に活動します。展葉一週間

後頃の薬剤散布2〜3日後に冷蔵庫から出し、放飼することが大切です。しかしながら、気温が16度以上で活動しはじめることから、今後の気温が上昇した場合、マメコバチの活動が受粉の適期とズレることが懸念されます。適期に活動させるためにも、リンゴ箱を利用



りんご黒星病は初期防除が重要である

用したマメコバチの巣箱をJAの冷蔵庫に保管するなどして対策に取り組みましょう。

野ネズミ対策

野ネズミの被害を受けやすい園地として、敷草、敷わらなどを行なっている園地、水田転換園、山林及び原野に隣接した園地、もし

くは新たに山林及び原野を造成した園地などが上げられます。被害を受ける時期は冬から春先にかけてであり、特に早春の樹の周りの雪が解け始めた頃に多いとされています。被害防止対策として、回避・忌避剤、殺そ剤などを使って密度を減らす直接的な方法があります。生息密度が高い場合は甚大な被害を受けることから、融雪後に効果的に対策を行いましょう。

殺そ剤による駆除については、ネズミの体内に入った場合のみに効果を表わすことから、ネズミがよく食べる方法をとらなければなりません。毒餌の食いつきが悪い場合は、殺そ剤を含まない餌を与えて2〜3日喫食させた後に毒餌を置くなど工夫してみましよう。また、そ穴投入法については、野ネズミの穴や通路に殺そ剤を投入して駆除することは基より、土手や園内など雑草が茂っている所に多いので重点的に行いましょう。さらに、園内が汚れていると野ネズミの侵入が容易になり、被害を受けやすいことから、園地を清潔に保つことが大切です。

(参考：りんご生産指導要項)